



# SSH通信

広島大学附属高等学校

Ⅱ年5組AS委員

2020年度 第9号

2021年3月19日発行

## SEA (Science English Arena)

昨年度まで実施されていた学校設定科目「ASサイエンス・コミュニケーション」の特別講座「英語合宿」の代替として、今年度は1月14日(木)の午前、および1月28日(木)の午後に「SEA (Science English Arena)」というプログラムが実施されました。このプログラムでは、1・2学期の「ASサイエンス・コミュニケーション」の授業で学んだことを応用して、英語で課題研究の成果をアピールする方法や、研究論文を書く際に使う表現を学んだり、実際に英語で研究発表を行ったりしました。

1月14日(木)の1回目は、英語で自分たちの研究の1分間アピールを作成しました。一見、簡単そうに見えますが、実際やってみると一分で自分たちの研究の本意をまとめるのは難しく、しかも英語でビデオ会議という設定だったため、大変でした。また、1月28日(木)の2回目は、英語での研究発表を行いました。英語での発表ではどうしても時間が長くなってしまい、時間配分に苦労しました。所要時間のほとんどを発表で埋めてしまって質疑の時間が十分に取れないこともありました。

COVID-19の影響で、韓国やタイの生徒の皆さんとの交流が難しく、英語で自分たちの研究に向き合う事が少ない中で、この貴重な機会でも多くのことを学ぶことが出来たと思います。



1月14日: ALTのピアース先生の講義



1月28日: 発表準備



1月28日: 発表の様子

## タイ研修(オンライン):Thailand-Japan Student Science Fair 2020

2月24日(水), 25日(木)にThailand-Japan Student Science Fair 2020がオンラインで実施されました。タイと日本、あわせて65校が参加する大会です。1日目は開会式とノーベル賞受賞者らによる記念講演, シリントーン王女殿下ご臨席の下でのポスター発表, 染色体についての学習とタイの自然環境を知るオンライン旅行, 2日目は分野ごとのオーラル発表と閉会式がありました。本校からは2年ASコース7名が参加しました。

(感想)

・私はタイ研修に参加し、課題研究の発表を行いました。オンライン開催になってしまったことは残念でしたが、先生方のご尽力でとても楽しかったです。交流の中で、タイならではの着眼点も知ることができ、有意義なものになりました。

・初のオンライン開催で戸惑うこともありましたがとても貴重な経験ができました。自分の発表ではスライドの全体の構成やレイアウトを工夫することができました。また、ほかの参加者の発表を聞き、自分にはない発想や興味深い研究内容に感銘を受けました。閉会式ではタイの伝統的な踊りの発表があり、カラフルな衣装と優雅な踊りがとても印象に残りました。今回学んだことをこれからの課題研究や将来にいかしたいと思います。

## 韓国研修(オンライン):天安中央高等学校(ASコース) ムンサンスオク高等学校(GSコース)

### ムンサンスオク高等学校(GSコース)

私たちは2月17日(水)にオンラインで行われた、ムンサンスオク高等学校との「課題研究協働プログラム」に参加しました。事前学習会ではメンバーのほとんどが外国に行ったこともなく、英語で外国の人と話す機会もなく、始まる前はとても緊張していました。話始めると、初めはぎこちなかった会話も韓国の生徒の方々の温かい反応に助けられ、楽しく会話することができました。



オンライン発表の様子

またお互いの研究発表の当日、専門的な内容を英語で説明してうまく伝わるか、また相手の発表を理解できるかととても不安でしたが、いざ始めてみると興味深い研究内容や、工夫された発表方法に刺激を受け、とても充実した時間を過ごすことができました。コロナ禍による困難や苦勞も乗り越えて、海外の高校生と交流の機会を持てたことは本当に良い経験になりました。このような機会がまたあればぜひ参加してみたいと思います。

### 天安中央高等学校(ASコース)

1月29日(金)、今年度2回目の「韓国・天安中央高等学校と課題研究協働プログラム」を行いました。今回の交流で通算22回となります。前回のオンライン交流では両校の全チームによるポスターセッションのみでしたが、今回は、SSH日韓交流事業の歴史や両校の紹介動画の視聴、分野ごとに分かれてのポスターセッションとフリートークを行いました。コロナ禍で海外生徒との交流が制限される中、このようにオンラインでの交流ができたのは大きな成果でしたが、やはり画面を通しての交流は、残念ながら国際交流ならではの言語・文化の壁だけではない、距離感の隔たりがあるように感じました。おそらく、現地での個人単位の交流の不足だけではなく、画面の壁による互いの空気感の伝わりづらさが原因として挙げられるのではないかと思います。今後、もしオンラインでの交流となる場合、画面という壁を乗り越える、新たな技術に期待したいと思います。



生物分野のセッション



オンラインでの記念撮影